

## 学校法人五島育英会 学校評価（自己評価）制度 2023年度 実施報告書

学校名	東京都市大学二子幼稚園
園長名	荒屋 勝寿

重点目標Ⅰ 良質な教育の実践					
重点課題① 魅力ある教育プログラムの開発・実践				自己評価	S
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
①新規課外活動の実施	①2年目を迎える課外あそびの効果測定（評価）を行い、効果測定に基づいて改善を図る。 ・年長保育室（やま・もり）を使用しての絵画教室、習字教室実施の可能性を調査、検討し、実現に向けて計画を立てる。	①具体的な効果測定ができたか。 ・計画することができたか。	○運営面及び内容に関する保護者アンケートを実施し効果測定を行った。 ○他園の課外教室（ピアノ、絵画、リトミック）を見学。小学校教育対応講師と面談。新規実施に向けた情報収集と計画立案の準備ができた。 ○ミニゴール、ゴールネット等の備品を購入し環境整備を行う。事故、ケガなく一年間実施。 ○出欠確認、内容の振り返り、安全確認を	○保育室を利用した課外あそびの実施検討の継続。 ○課外あそびの募集の仕方、クラス編成、実施回数、内容の充実を検討。 ○成果発表会前の保護者向け中間報告、評価報告を検討。	
②課外活動の環境整備	②サッカーあそび、ミュージカルあそびの運営に必要な備品を購入する。	②安全な環境整備ができたか。			

			担当者と毎回実施。 ○成果発表会を計画実施し、保護者アンケートで効果測定を行った。	
①新しい体づくり活動の実施	①正課運動あそびの検証を踏まえ、「体づくり」教育プログラムの充実を図る。 ・夏場に活動が制限されない環境づくりの調査、研究を開始する。年少、年中、年長の発達段階に合わせた運動器具や備品を購入する。	①検証と充実が図れたか。 ・具体的な検討がされたか。	○学年別チャレンジ項目を再設定し充実した内容で実施することができた。 ○「骨太な体づくり」をねらいとした指導計画を立て実施することができた。 ○成果発表会（お披露目会）を実施、一年間の活動成果を保護者に伝えることができた。 ○運動機能の向上、子どもの変化、取り組みの成果について保護者アンケートを実施し、一年間の活動内容を検証することができた。 ○体力、柔軟性、運動機能の向上が観察された。 ○計画通り歯ブラシ教室を実施。	○「体づくり」教育プログラムの充実を図る。 ○運動能力向上の検証。 ○園目標虫歯罹患率12%以下達成と具体的な取り組みの検討。
②虫歯予防の取り組みの継続	②虫歯罹患率の経年変化調査を継続する。 ・歯ブラシ教室を継続する。	②虫歯罹患率の調査が継続できたか。		

			○3学年虫歯罹患率の数值化が継続できた。年少1.5%、年中17.1%、年長0%と全体平均で全国平均(2022年度16.1%)を大きく下回った。	
<b>重点課題② サポート体制の充実</b>				自己評価 <b>SS</b>
<b>本年度の施策内容(達成目標)</b>	<b>具体的な取り組み内容</b>	<b>評価の観点</b>	<b>達成状況</b>	<b>課題・改善方法等</b>
預かり保育の充実に向けた改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度調査の結果を分析し改善に取り組む。</li> <li>・月・火・水・木・金曜日の正課保育後に預かり保育を実施する。年少は9月以降の利用で計画する。長期休業中の預かり保育を2022年度実績数と同じく実施する。</li> <li>・預かり保育を行う保育室の机や備品を計画的に整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度調査を実施できたか。</li> <li>・平日(4月～3月)の利用者数が3,483名を上回ったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運営面及び内容に関する保護者アンケートを実施し満足度調査を行った。</li> <li>○平日(4月～3月)の利用者数が4,426名で評価観点を大きく上回った。夏季休業前午前保育期間336名、夏季休業中489名、冬季休業前午前保育期間490名、冬季休業期間134名、春季休業前午前保育408名、春季休業中268。年間合計6,551名で昨年度の1.4倍の利用があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○預かり保育専属教員の配置検討。</li> <li>○登園前実施、終了時間の延長、年間実施期間、実施プログラムの検討、料金体系の改善を検討し実施。</li> <li>○満足度調査を踏まえた運営内容の改善。</li> </ul>

重点課題③ 教職員の人材育成・資質向上				自己評価	S
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
①外部研修会の参加	①教員の外部研修を行う。	①延 60 人の参加があったか。 ・教員会議後の研修を定期的に開催できたか。	○外部研修（夏・冬・春）参加、オンライン研修を含めて延べ 83 名参加。研修報告会を実施し研修内容の共有を図る。 ○教務部が年間 10 回の内部研修を企画実施。外部講師を招いての研修を 4 回実施。 ○7 月 19 日教員 13 名で附属小学校への視察研修を実施。	○外部研修への参加を促進する。 ○教務部主催研修の定例化。 ○小学校、中学高等学校への視察研修実施検討。	
②グループ校の視察研修を実施	②塩尻高校、等々力中高、附属中高への各 2 名派遣視察研修を計画する。	②視察研修ができたか。			
重点課題④-1 ICT を利用した教育計画				自己評価	S
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
①ICT を活用した教育プログラムのプレ実施	①新たな ICT 教育教材の導入を調査、検討する。 ・活用のための教材化を教務部で検討する。 ・受け身ではなく、教材を活用した継続的学習の計画を立てる。 ・Kits を使用した発表活動計画を立て、実践する。	①ICT 教材の検討ができたか。 ・計画を立てて実践できたか。	○KitS 活用の教員研修を 3 回実施。 ○「きつつアース」を年長 2 クラスで年間 4 回テスト実施。新しいプログラムとして 2024 年度の導入を決定。	○KitS 研修への継続参加。	
②ICT 活用のための教員研修の実施	②Kits をより活用するための教員研修を計画して実施する（2022 年度は 4 回実施）。	②教員研修ができたか。			

重点課題④ー2 国際化計画				自己評価	SS
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
サイバードリームの改善及び新たな英会話を含む発表会を企画	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善点を踏まえた教育計画を立てる。</li> <li>英語の会話形式の発表会を行う。</li> <li>サイバードリームのネイティブ講師によるレッスンを計画して実施する。</li> <li>教員研修を行い、サイバードリームの利用方法の向上を図り、英語教育の充実を目指す。</li> <li>必要な教材や備品を購入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画を立てることができたか。</li> <li>発表会ができたか。</li> <li>ネイティブ講師のレッスンを定期的 to 実施できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育計画に基づき各学年毎朝実施。</li> <li>○SDネイティブ講師の英語活動（レッスン）を全学年学期に1回（年3回）実施。</li> <li>○ネイティブ講師と会話形式の発表活動を行った。</li> <li>○学年別で教材活用の教員研修を実施。英語教育活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○メニューのバージョンアップを図る。</li> <li>○ネイティブ講師の派遣回数の拡大検討。</li> <li>○教育的効果の検証。</li> </ul>	
重点目標Ⅱ グループ間連携の深化・拡大					
重点課題 各学校の連携強化				自己評価	A
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
①塩尻高校生の職場体験学習を推進	①塩尻高校職場体験学習を2名受け入れる。 ・職場体験学習実施の検証を行い、職場体験学習生徒受け入れの定例化を推進する。	①定例化推進の課題が整理できたか。	○職場体験の定例化を推進し2024年度実施準備。	○塩尻高等学校職場体験、留学生受け入れの計画再検討	
②塩尻高校留学生との交流を検討	②国際交流という形で塩尻高校の留学生の受け入れ計画を立てる。	②計画できたか。	○留学生受け入れの推進準備を今後継続。	○幼大連携の現実的なあり方の検討。	
③都市大生サポーターの受け入れ拡大	③コロナの影響が減少した場合、延べ100人の学生サポーターを受け入れる。	③各行事に昨年度以上のサポーターの参加	○夕涼み会1名、運動会予行13名、当日17名、延べ31名	○付属小学校、等々力中高ネイティブ講師の英語活動の継続実施。	
④グループ校ネイティブ教員による英語活動支援の実施	④付属小、等々力中高ネイティブ教員による英語活動を継続する。	④継続実施ができたか。		○等々力中高理科部科学	

⑤内部進学制度附属小学校説明会の実施	⑤内部進学説明会を年長、年中を対象に実施する。年少はZoom配信予定	⑤実施することができたか。	<p>(昨年度は13名)の学生サポートを受け入れ。幼大連携の在り方を学期ごとに検証し打ち合わせを継続。</p> <p>○附属小学校、等々力中高からネイティブ講師を招いて年中クラス、年長クラスで各学期1回英語活動(英語であそぼう)を実施。定期開催を継続。</p> <p>○内部進学説明会を年中クラス、年長クラス対象に実施。年少はZoom配信。</p> <p>○等々力中高理科部教員・生徒が来園し、年中クラス、年長クラスで科学体験教室を実施。</p>	体験教室の継続実施。
--------------------	------------------------------------	---------------	---	------------

**重点目標Ⅲ 教育環境の整備・充実**

**重点課題 学習環境の整備・充実**

自己評価 **SS**

本年度の施策内容(達成目標)	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
学習環境の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウッドデッキ張替えを夏季休業中に実施する。</li> <li>・園庭靴箱7クラス分を新規購入する。</li> <li>・年少長机10台を購入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定通りできたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ウッドデッキ張替えを計画通り実施。</li> <li>○園庭靴箱7クラス分を計画通り新規</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中長期計画に基づき計画を実行。</li> </ul>

			設置。 ○年少クラス分10台の長机を計画通り新規購入。	
<b>重点課題 効率的業務の推進</b>				自己評価 <b>SS</b>
<b>本年度の施策内容（達成目標）</b>	<b>具体的な取り組み内容</b>	<b>評価の観点</b>	<b>達成状況</b>	<b>課題・改善方法等</b>
パステル利用に関する検証および改善	・入園試験 Web システム（ミライコンパス）、パステルの利用についての検証結果に基づき、分析、改善した上で継続使用する。	・システムの分析、改善及び運営ができたか。	○入園試験 Web システム（ミライコンパス）、パステルの継続使用。 ○パステルの継続使用と新規システム導入の検討準備実施。 ○コードモンの新規導入の実現。	○入園試験 Web システム（ミライコンパス）の継続使用。 ○パステルの運用停止とコードモン導入の定着を図る。
<b>募集広報活動</b>				自己評価 <b>C</b>
<b>本年度の施策内容（達成目標）</b>	<b>具体的な取り組み内容</b>	<b>評価の観点</b>	<b>達成状況</b>	<b>課題・改善方法等</b>
園則定員 70 名達成	・説明会 7 回、保育見学会・施設見学会 6 回開催で志願者 100 名（男児 50 女児 50）を目指す。	・志願者 100 名を達成できたか。	○説明会 13 回実施（昨年度 7 回）。延べ 169 家庭 296 名参加（昨年 159/302）。志願者数 53 名（昨年 87 名）。家庭数、志願者数は目標未達。	○区内就園児数が急激に減少。安定的な定員確保が課題。 ○広報活動の見直し。 ○預かり保育、課外活動の見直し改善。 ○保育教育活動の検証。 ○外部説明会、フェスタへの参加増検討。

## 学校長による総括

総合  
評価

A

総括評価は、各重点課題を総合的に判断して「A」とした。

第2期事業計画（2021年度～2025年度）の3年目に当たる2023年度は、感染症対策を継続しながら保育教育活動の通常化（コロナ禍前に戻す）を目指した。重点課題の達成のため、コロナ禍での経験を活かし、安心・安全をしっかりと確保しながら目標達成に向けて努力を続けた教職員の姿勢を高く評価したい。教職員による慎重を期した取り組みや工夫は、幼児期の成長を心配するコロナ禍を過ごした保護者の心配を小さくしたと思われる。コロナ禍、子どもの命と健康、安全を何よりも優先した時期は、保育教育活動の展開に教員たちが大いに葛藤してきた時期でもあり、重点課題達成への歩みは、一丸となって通常化に取り組んできた歩みでもある。コロナ禍の制限しか経験がない教員もいる中で「通常」に戻す困難は小さくはなかったが、全般的な園目標の実現は、教員たちが心を一つにして取り組んだ証でもある。一方園児募集状況は厳しく、保育見学会及び説明会の回数を増やし広報活動を行ったが、志願者数を増やすことはできなかった。

### 1. 教育活動

#### (1) 保育教育活動の通常化

##### ○異年齢交流の促進

今年度、異年齢交流を活発に行うことを保育教育活動の重点とした。子ども同士の信頼感の高まり、思いやりや優しさの育み、年齢に応じた能力や価値をもってもらいたいというねらいに基づく。交わりは、活動や行事だけではなく、休み時間のあそびの中でもみられた。年長組は、活動の手本となり、思いやり、優しさ、いたわりなどの気持ちが育ち、最高学年児としての自信や自覚の備わりが観察できた。また年少組・年中組は、年長組のあそびや生活をみて、あこがれを持って頑張るなど、いろいろな刺激を受けている姿が観察できた。これは、コロナ禍では出来なかった一年を通じての取り組みである。まとめとして、2月27日に「縦割り昼食」を行った。年長組がカレーを作り、年少組、年中組と昼食をともにした。一年間を通じた子ども同士の活動が、人としての成長の土台作りに繋がったと思われる。

##### ○食育

プランターを使用した園内野菜栽培や二子玉川ライズ菜園を利用した野菜栽培を行い、土づくり、成長の観察、収穫、調理と一連の過程を体験し、各学年学期に1回調理活動をすることができた。「調理マニュアル」「調理活動チェックリスト」「調理計画書」を改善改定し、安全に活動する環境を整えて行うことができた。コロナ禍では出来なかった活動に、緊張感を持って取り組むことができた。また、食育に関するおたよりを月1回発行し、保護者と連携することができた。

##### ○行事

春の遠足、夕涼み会、お泊り保育、敬老の日の集い、芋ほり、歩き遠足、クリスマス会、餅つき、凧あげ、マラソン大会、お別れ遠足は、大きな制限や制約を設けることなく実施できた。夕涼み会、敬老の日の集い、クリスマス会、マラソン大会、月1回の誕生会は、3学年合同で行った。三人行事の運動会、発表会、音楽会は、一部保護者の参観人数に制限は設けたものの、参観環境を通常に戻して実施することができた。幼児期の成長をしっかりと確認したいという保護者の願いに、教員が努力や工夫を重ねて応えることができた。

○「サッカーあそび」「ミュージカルあそび」

課外の「サッカーあそび」「ミュージカルあそび」は2年目を迎えた。希望者が多く、開講クラスを増やすなどして実施した。それぞれ、設定した目標は達成できた。参加した園児が楽しそうに活動する姿が観察できた。保護者を招待した「お披露目会」も行うことができ、子どもたちの成長した姿を伝えることができた。運営に当たっては、課外スタッフと教員がしっかりと連携して安全な環境を確保しながら行うことができた。運営や内容、お披露目会に関する保護者アンケートを実施し、効果測定を行うこともできた。課題や改善点が明確になり、次年度に活かす計画である。

(2) 国際教育の推進

○英語教材サイバードリーム (※教育水準向上補助金の活用)

英語教材サイバードリームを使用して、各学年毎朝10分間の英語活動を行なうことができた。学期に1回ネイティブ講師が来園し、年少、年中、年長クラスで対面の英語活動を実施した。TV画面に登場するネイティブ講師が実際に保育室に現れ、生活に関する単語を発音したり、ジェスチャーを交えて歌を歌ったり、子どもたちは目と耳と体で英語活動を楽しんだ。簡単な質問を園児にして園児が応える場面を学年別で導入し、レベルアップした活動を行なった。

○英語活動「英語であそぼう」

付属小学校、等々力中高から学期に1回ネイティブ講師が来園し、歌を歌ったり、ゲームをするなどの英語活動を行なった。曜日、天気、日常にまつわる気持ちの質問をするなど、簡単な会話をする場面を導入して英会話に繋がる活動を行うことができた。

○英語あそび きっつアース (※教育水準向上補助金の活用)

世界30か国に在住するネイティブガイドとオンライン交流をし、地球規模の多文化体験をした。本園の保育教育活動の柱の一つでもある多文化教育を推進した。外国の言葉の背景にある文化に子ども自らが興味を持ち、英語を用いたコミュニケーションを楽しむ姿が観察できた。

(3) 健康な体づくり

○正課運動あそび

「骨太な体づくり」をねらいとした指導計画の立案を依頼し、ねらいを定めて実施することができた。学年別チャレンジ項目を設定し、内容の充実が図られた。成果発表会(お披露目会)を実施、一年間の活動成果を保護者に伝えた。運動機能の向上、子どもの変化、取り組みの成果について保護者アンケートを実施し、一年間の活動内容を検証することができた。全学年で、柔軟性や運動能力の向上が観察された。

○歯の健康

年長児の虫歯罹患率は、0% (昨年度12.7%、一昨年14.3%) で昨年より向上した。全国平均が16.1%であることからわかるように、罹患率の低さのみならず未処置の園児がいないことは、保護者の歯への意識が高いことを示している。校医(歯科)による歯ブラシ教室は、昨年度に引き続き全学年で実施することができた。今後も継続する予定である。

## 2. 預かり保育

平日（4月～3月）の利用者数が4,426名で目標とした昨年度の実績3,483名を大きく上回った。夏季休業前午前保育期間336名、夏期休業中489名、冬季休業前午前保育期間490名、冬季休業期間134名、春季休業前午前保育408、春季休業中268名。年間合計6,551名で昨年度（4,831名）の1.4倍の利用があった。運営面及び内容に関する保護者アンケートを実施し満足度調査を行った。預かり保育専属教員の配置、登園前実施、終了時間の延長、年間実施日数の拡大、実施プログラム、料金体系の改善等を検討し、満足度調査を踏まえた運営内容の改善を図る予定である。担当する教員の保育への真摯な取り組みによって、ケガや事故などなく、一年間の業務を終えることができた。預かり保育に携わった全ての教員の姿勢を高く評価したい。

## 3. 分掌業務

### ○事務部

入園手続き、保育料及び各自治体の補助金業務を正確に行う。東京都、世田谷区の各種補助金申請については、該当事業の精査、申請書類等の作成提出を遅延なく正確に行うことができた。預かり保育利用料の領収等を正確に行う。用品購入などは、教員と緻密な連携のもとで行われている。園舎内外の修繕を徹底して行うため業者依頼をスピーディに行い、園児の安全な園生活を実現している。用務員の園内衛生・清掃業務は徹底しており、健康で安全な園児の園生活を実現するとともに保育教育に専念する教員の業務に大きく寄与している。教員と事務部の円滑な連携協力は特筆できる。事務スタッフ、用務スタッフの誠実に業務に取り組む姿勢は、園児の幼稚園生活、保護者の幼稚園対応、教員の保育教育業務を大きく支えている。事務機能の充実とキャッシュレス化を図るため、新システムを導入予定。

### ○教務部、広報・保健・安全部、総務・管理部

教務部は、園内教員研修の計画と実施、「造形」「音楽」「運動」「食育」「多文化教育」の各カリキュラムの見直しを行った。広報・保健・安全部は、2024年度広報を企画立案し、ホームページのリニューアルやパンフレットの改訂を行った。園内遊具の安全点検を行うなど、園内の安全対策を実施。総務・管理部は、ふたば会（卒園生同窓会）の計画と実施、図書室の整理・蔵書点検、課外あそびの運営に取り組んだ。分掌活動は5年目に入り、業務の改善と定着が図られている。

## 4. 教員の質向上と教員研修

外部研修（夏・冬・春）参加者は、オンライン研修を含めて延べ83名が参加し活動目標を達成した。研修報告会を実施し研修内容の共有を図っている。教務部主催の園内研修は、『瀬田小学校までの避難経路の確認』から始まり『子どもの人権について』まで、これまでに年間10回実施。うち外部講師を招いての研修は4回実施した。7月19日教員13名で附属小学校への視察研修を実施。体験・参加型の研修を通して、保育教育に関する知識を習得し、スキルの向上を図ることができた。

## 5. グループの連携

都市大グループ、東急グループの一員として、スケールメリットを多くの活動で活用することができた。幼大連携の具体的なかたちとして、延べ31名の学生サポーターを受け入れることができた。今後の連携の在り方を検討し、より現実的な連携を実現していきたい。附属小学校、等々力中高のネイティブ講師による英語活動、等々力中高の理科部による科学体験教室は、昨年度に引き続き行うことができた。正課運動あそび、年長水泳指導、課外サッカーあそびは、東急スポーツシステムより派遣される専門コーチの指導を受けている。2023年度は、歩き遠足やマラソン大会などの行事サポートに加わっていただき、園児の安全確保に尽力いただいた。

## 6. 教育環境の整備

### ○楽器の購入（※教育水準向上補助金の活用）

リズム楽器を使い、楽器表現を豊かにし、音楽の楽しさを味わうために楽器を購入した（グロッケン、ベル、水笛、トーンチャイム）。あそびながら生活の中の音と比べてみたり、動物や虫の真似をしたり、音に対するイメージを動きや言葉で表わす姿が子どもに見られた。音楽会では、曲想と楽器との関わりに気づき、表現を楽しみながら技能を身につける姿も見られた。練習ではなかなかできなかったが、音を合わせて合奏する面白さに気づく姿が観察された。音あそびから音楽会の発表まで、他の園児の表現に触れて、それぞれの子どもが自己の表現に繋がるような環境設定ができたことと捉えている。

### ○園内 ICT 化

園内の無線 LAN の整備により、各行事や講演会のライブ配信を行なえるようになった。加えて、アプリ「おうちえん」「てのりの」を活用して、保育教育活動の様子を定期的に家庭に届けることができた。

### ○砂場その他園庭の整備

3月30日、砂場の砂を足し整備した（消毒済み、学校用の砂）。子どもの登園前降園後、園庭の整備を教員の当番制で毎日行うことができた。危険なものが落ちていないか、遊具に不具合がないかを確認し、ケガ防止のラバーを箒で掃くなど安全確保に努めた。砂場は、砂をチェックした後に網を掛け動物などのいたずらを防止し衛生状態を保つ。子どもたちの健康と安全を守る万全の体制を整えている。安全に園庭活動ができる環境を引き続き整えていく。

### ○保護者の満足度調査

昨年度に引き続き卒園児保護者対象に満足度調査を行なった。総合的な満足度は、満足が82.5%（昨年度95.0%）、やや満足が14.3%（昨年度3.0%）という数値であった。満足の割合が12.5ポイント下がった。この減少は、共働きの家庭が多くなる中、預かり保育の現状、保護者と園の関わり状況、幼稚園全体の保育教育の在り方への課題が示されたものと推察する。通常保育教育へのできる限りの転換と日々の保育教育活動に情熱をもって取り組んだ教員の努力はあるものの、調査によって示された改善点へのアプローチは丁寧に行いたい。数値的には、保護者の期待に応えて一定の評価が得られたと考えてはいるが、一方で厳しい意見は真摯に受け止め、改善を図ってきたい。

## 7. 志願者数の分析

願書受付日の志願者数の推移は、48人（2024年度）→75人→90人→108人→112人→108人→117人→112人→76人（2016年度）となっている。今年度は、昨年度比-27人と大幅に人数を減らした（※数字は11月末時点）。弟妹の志願者数は、昨年度と同数であった。世田谷区内59園の志願者総数は2,188人で、昨年より331人減少した。ここ5年間の増減の推移は-331、-594、-312、-484、-365、-464で、区内の志願者総数は2,550人減少している。また、来年度4月の59園の定員充足率は61.6%と予想され、前年度から5.7%の減少となる（5年前の充足率は98.1%）。募集活動は年々厳しさを増している。定員確保には、保育教育活動の魅力をしっかりと発信していくことが重要であり、共働き世帯が安心して選べる幼稚園であることが肝心である。課外活動や預かり保育の改善を図り、志願者増を目指し施設見学会や保育見学会を開催していきたい。今後も、建学の精神、教育方針を保育教育活動で示しながら、特色ある教育の充実を図ることなどについて議論を一層進めていきたい。

本園の志願者減の理由は、次のことが考えられる。①区内就園年齢児の減少 ②施策による影響（保育無償化、子ども誰でも通園制度、区内保育園増加） ③広報活動の発信不足 ④17時までの預かり保育 ⑤教育コンテンツの宣伝不足 ⑥課外活動の不足

#### 学校関係者評価

##### 学校評議員A

2023年度のコロナ禍前の保育活動に戻すという目標は、達成できたと感じます。縦割りでの活動が可能になり、コロナ禍では経験することが出来なかった社会性や協調性を育むことが出来ました。食育に関しても、調理活動が再開し、土づくりから収穫、や調理を通して、食への興味関心を持つことが出来たと思います。2024年度からの朝と夕方の預かり保育の拡大は、共働きしながら幼稚園に通わせたいという保護者の方にとっては、大きなメリットだと思います。その他にも課外活動やICT教育の充実や教職員の研修など積極的に取り組み、次年度の入園希望者が増えることを期待している。

##### 学校評議員B

園内生活の日常を知らない学校評議員に対して、園長、教頭、統括主任、事務より園児の生活・活動が手に取るようにわかるくらい詳しく報告があった。取り組み理解に役立った。園長報告では、コロナウイルス感染症が第5類に移行されてから、コロナ禍以前の教育ビジョンに回帰するために強い気力をもって取り組んだことを強く感じた。配布された資料の一つひとつの内容を共有できた。園評価「A」に疑いの余地なしと思う。異年齢交流については、安全上のハードルは高いと思う。近隣の公立校、私立校での学芸会、運動会の短時間参観は、年齢的に困難なものか。食育については、グループ力を生かす取り組み評価は、他園にない強みと評価した。この食育の取り組みをもっとアピールして欲しい。預かり保育拡充についても、世の時流に合わせて教職員が一致して努力されたことを評価する。幼稚園としてのポリシーを失わない思いも感じられる。一般的な取り組みや個別的な取り組みを園運営の大きな経営基盤にして欲しい。少子化の時代で、園児募集の目標が達成できるように、評議員として力を注ぎたい。

##### 学校評議員C

###### ○全体的な意見感想

コロナ禍前の保育内容に戻っており、保育内容も順調に進んでいるようだ。私たちが運動会、子どもの発表会、子どもの音楽会などを参観、また卒園式も4年ぶりに参列し、日常の保育を実感した。感染予防対策は十分に行われており、行事日に学級閉鎖のため発表がないクラスも出るなど配慮されていた。日常の保育を持続継続可能へのご努力に改めてお礼申し上げます。

新入園児減少の報告があった。定員割れになり、2024年度は厳しいスタートなるようだ。全国的にみても、3歳児の人口はコロナ禍の出産時で減少でもある。こども園が主流になる移行期でもあり、5年前に比べると幼稚園数は約3割も減少している。この減少傾向は止まらず、逆にこども園は増加傾向にある。ちなみに保育園も減少傾向である。このような社会状況で幼稚園へ通うことへのメリット、貴園を選択する理由をより明確にする必要がある。少人数での保育もあるのだろうが、やはり70名のできる内容もあるはずだ。貴園の伝統でもあるあそびを中心に据えた、心の成長を大切にする保育内容を前進していただきたい。

○実施報告書について

各項目の内容はすべて達成されており、コロナ禍後の平時の保育を通し、異年齢との交流も積極的に行うなど、子どもも周りの関心が拡がり、また同年齢の愛着など、様々な成長の様子が見られたようだ。

今年度は特に公的補助金を活用した取り組みの報告があった。教育水準向上補助金であり、「英語教材サイバードリーム（教育活動 国際教育の推進）」「英語あそび きっつアース（教育活動 国際教育の推進）」「楽器の購入（教育環境の整備）」である。英語教材の活用は、約10年ほど前、貴園に外国人の園児が入園し、それをきっかけに多文化への理解を進める…というカリキュラムができたと記憶している。当時は今ほど多言語へのかかわりをしている園はなく、大変貴重な内容であり、こういうベースが今のサイバードリーム等の教材、英語あそびの導入にあると思われる。実際の内容も、子どもを英語に染めるような「勉強」ではなく、ムリせず、興味関心を養うことを主眼としており好感もてる。各学年への目標もはっきりしており、またICTを活用し、実際に海外の方との交流をするなど積極的な取り組みがあった。楽器あそびは幼児期の教育において大切な柱のひとつでもある。貴園の子どもの音楽会は、以前はおゆうぎ会と称し、劇やゆうぎの発表と一緒に行っていたが、12、3年度ほど前に独立して、実施するようになったと思う。音楽的な活動の大切さを意識されてのことと思うが、貴園の伝統的な行事のひとつであろう。楽器は、自然に出来ることはなく、大人の指導が肝心である。昨年であったが、発表会までの準備の様子を記録した動画を拝見したが、担任・副担任が丁寧に、くり返し、粘り強く指導しており、園児等も自然に楽器に親しみ、楽しく取り組んでいることを実感した。貴園の音楽の経験の大切さの方針が、父母の会主催の音楽会開催にも反映されて実施しているかと思う。様々な場面を通し、音楽的素養を養う貴園の環境は素晴らしい。これ以外に食育への取り組みも報告があった。コロナ禍で出来なかった保育内容であり、縦割りでの昼食や収穫した野菜の調理、園児にも貴重な経験になったことと思う。

園運営での改革にも取り組んでおり、各補助金の活用や事務手続き、特に集金方法の改善など幼稚園という小さい組織では、なおざりにしてしまうことにも取り組む姿勢は評価したい。24年度人員配置について説明があった。教頭が休職にはいるとのことであるが、年齢的にも経験年数的にも良い時期に休む期間であるかもしれない。保育業界は、ここまで年齢を重ねての就労は初めての経験である。女性の多い職場で男性が入ってくることも珍しい。就業平均年齢がまだまだ低いので、メンターや就労モデルとなる者が非常に少なく、教員が孤立してしまう傾向がある。貴園は大きな法人であるため、こうした背景を改善し、より働きやすい環境を整える工夫を一層することが肝要であろう。今後とも貴園の取り組みに期待します。

【自己評価基準（重点課題・その他の学校独自の課題・総合評価 共通）】

SS＝卓越した成果を上げた。 S＝目標を大きく上回る成果を上げた。 A＝目標を概ね達成した。

B＝一部成果はあったが、目標を達成していない。 C＝目標をはるかに下回る達成状況であった。

## 幼稚園教育の質向上（環境整備）の取り組みについて 教育水準向上補助金の活用報告

本園では、教育活動の質向上のため、施設・備品の新規購入や修繕など様々な環境整備に年間を通じて取り組んでまいりました。昨年11月に、その一環としての取り組みをお知らせさせていただきました。このほど下記項目についての対応が完了しましたのでお知らせいたします。

今後も子どもたちが安全に楽しく遊び、学べる環境を構築し、良質の保育教育を提供してまいります。

1 英語あそび教材「サバードリーム」 4月24日から3月8日  
遊びを通じて英語にたくさん触れ、ネイティブの発音に音声で慣れ親しむことで、言葉に対する感覚や言葉で表現する意識を養ってきました。

### 〔年少組〕

「あそび」を通して幼児期に多文化に触れることで、世界への関心が広がりました。興味をもって世界を知る環境を整えられたと感じています。毎朝10分間楽しみながら英語にふれることで、英語を好きになった様子があります。繰り返しのリズムが多いので、似たところでは間違えたりすることもあります。発音が出来るようになりました。単語を繰り返し覚えた後、動物や果物、体の部位や色を質問されて答えることができていました。ネイティブ講師による「English」の時間は、学期に1回の楽しみとなっていたようです。

### 〔年中組〕

子どもたちは吸収が速く、歌詞でもダンスでもすぐに覚えてしまいます。子どもは楽しさを感じながら音やリズムをインプットしている様子があります。今までとは異なることや新しいものが加わっても、英語あそびの楽しさを保っているようでした。野菜や果物など、わかるものはどんどん発音していきます。年少組の時に知ったものが記憶に残っている様子がよくわかります。ネイティブの発音とジェスチャーをまねて、大きな声で「good good job」と毎回発音しています。学習というかたちで語彙が増えていく時間ではありませんが、生の英語にたくさん触れることで、挨拶などは自然と身についています。

### 〔年長組〕

英語への関心が高まり、記憶力も高まり、「言葉」に興味を持つようになります。単語やフレーズを覚えている様子もあります。理解力も発達してくるため、次の場面の見通しをもって取り組む姿勢がみられるようになりました。体力や筋力もある程度安定するため、身体を使ったゲームや歌やダンスなどのカリキュラムも楽しんで取り組んでいました。社会性やコミュニケーション能力も高まるため、友だちと協力したり、話したりして英語にチャレンジする姿も観察されました。日本語と外国語の違いに気づき、文字や表現の違いを理解するという小学校教育への入り口に差し掛かっている状態があります。



2 オンライン国際交流教材「きつつアース」 4月24日から3月8日

異なる言語や文化に触れることで、世界観の広がり、好奇心、想像力を育んできました。異文化間の交流は、言語への関心だけではなく、社会への関心の高まりにも繋がります。グローバル教育の一環として進めてきました。

① 6月8日

テーマ「自然遊び」

マレーシア在住の昆虫専門家と交流。日本では見られない昆虫の紹介から、繁殖の様子の説明を受けました。葉っぱや枝、花に疑似化したカマキリやナナフシ、世界一大きなカブトムシやちょうちょを観察しました。多文化交流の一環として、昆虫の生態を知ったことで自然遊びの広がりが期待できます。

② 1月25日

テーマ「魚」

アメリカ在住のアニメーターと交流。水面積が7割以上を占める地球で、25000種類以上生息する魚について絵を描いたりしてあそびました。魚博士の仲間入りです。理科や生物といった教科に興味を持つ入り口になりました。

③ 2月1日

テーマ「表現」

インドネシア在住の表現者（パントマイム師）と交流。人やものの動きの特徴をとらえ、言葉を使わないパントマイムで身体や表情で表現あそびをしました。パントマイムに挑戦して、表現することの面白さを体験し、運動会、発表会、音楽会に繋がりました。時差や季節の違いにも触れました。

④ 2月19日

テーマ「食育」

インドの小学校教諭と交流。珍しい色や形の果物や野菜について学びました。「食」への興味関心を高める話しを聞くことが出来ました。クイズや簡単なゲームをして、食べることと成長について関心を高めました。

様々な国をテーマにして、異文化に触れる機会を年少組、年中組、年長組で、正課の時間を使い一年間行ってきました。自分たちとは違う多様な文化や習慣があることを知り、違いがあっても友だちになれること、仲良くなれること、互いに理解し合えることを学びました。なによりも、この世界は広くて、大きくて、面白いことがたくさんある事を知った様子でした。ある時は、郷土料理について学び、違った食事を通して異文化に親しみました。秋にはハロウィンなどの欧米の行事を体験しました。楽しみながら異文化により親しみを持てる経験をしました。

多様な文化や考えを持つ人たちとの出会いもあり、Zoomをもちいて交流しました。この交流を通して、異文化への興味関心や、互いに尊重し合う気持ちが育まれました。海外で生活している人たちを具体的に知ること、自分たちと違うところや同じところがあることを学びました。これらを通して、自分の価値観だけではなく、多様な価値観を尊重し理解する人に育ってほしいと思っています。



### 3 楽器あそびと音楽会 [新しい楽器：グロッケン、ベル、水笛、トーンチャイム]

リズム楽器を使うことで楽器表現が豊かになり、音楽に親しみ、音楽を楽しみながら技能を身につけることができました。小学校入学前に、音楽表現を工夫することや音楽を味わって聞く姿勢が育まれました。



12月初め、「子どもの音楽会」に向けて楽器あそびが始まりました。はじめは、いろいろな楽器に触れて楽しむ様子が見られました。子どもに楽器を見せると「これは面白い形」「棒みたい」「水が鳴っている」「トーンチャイムっていうんだ」「ベルがいいなあ」と、それぞれ感想を述べていました。最初のうちは正しいリズムにこだわらず、音を出して遊ぶことに夢中になっていました。正しい持ち方、正しい吹き方、正しい叩き方をするとしっかりと音が出ます。思い思いの音を出すことで、リズム感、音感が鍛えられ、遊びながら身につけていくことが増えていきました。

子どもの音楽会に向けて曲も決まり、歌声や楽器の音が園内に響きました。自分の楽器が決まると、リズムを子ども同士で教え合ったり、友だちのパートも覚えたり、少しずつクラスで一つの曲が完成していきました。子ども同士で見合う日には、お客様（保護者）に見てもらう緊張感や喜びをプレ経験しました。本番が近づくと、声の大きさや姿勢、楽器のカッコいい持ち方を話し合い、どんな姿を見てもらいたいのか、気持ちを高めていく姿がありました。当日、練習の成果を発揮し、一番良い姿を保護者の皆様にご覧いただくことができました。

